

○社会環境システム工学科

大項目	大項目の説明	中項目	中項目の説明
人間性・社会性・国際性	社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。	人間性・国際性	現代の土木環境工学が直面している国内的、国際的問題を理解し、社会の技術者への要請を察知し、技術者のあるべき方向性を理解して適切な行動ができる能力を身につけている。(C)
		技術者としての倫理	工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解するとともに、公共の福祉の向上と環境保全を使命とする土木環境工学の技術者として必要な倫理・規範や責任を理解・判断できる。(A-5)
主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。	自己学習能力	土木環境工学の分野に興味を持ち、演習などを通じて自主的に学習する習慣を身につけている。(A-3)
コミュニケーション能力	相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。	自己表現力	調査・実験・研究内容や成果について図表などを使って正確でわかりやすく記述、発表や質疑応答ができるとともに、専門分野に関する英語を理解・記述するための基礎的な能力を身につけている。(A-2)
課題発見・解決力	課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。	課題解決能力	土木環境工学の分野における課題の発見から解決にいたる手順や方策を計画・遂行できる能力を身につけている。また、調査や実験を計画・遂行し、結果を正確に解析して考察する一連のプロセスを体得している。また、チームで仕事をするための能力を身につけている。(A-4)
知識・技能	学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能(実践力)を活用できる。	自然科学の知識	土木環境工学の技術者に必要となる専門知識を獲得する際に要求される数学、物理学などの基礎知識と情報処理技術に関する基礎知識を身につけている。(A-1)
		工学的専門知識	自然との調和を図りつつ生活・経済・文化・安全・地域を支える社会基盤を計画・設計・管理・評価する上で必要な、計画学系、建設材料工学系、構造工学系、地盤工学系、水理・水工学系、水処理・環境工学系の専門能力を身につけている。(B)